



小田小だより

〒236-0052 横浜市金沢区富岡西1丁目69番1号 TEL045(775)3011

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/koda/>

横浜市立小田小学校

夏休み明けにあたって ～ よいところを認めていく ～

校長 中川 浩二

今年の夏休みは、いくつかの地域で夏祭りが数年ぶりに開催され、その様子を見に行きました。小田小の子どもたちの喜んでいる姿が見られ、うれしく思いました。また、やぐらの上で踊ったり、6年生の希望者がソーラン踊り（右写真）を披露したりと地域行事に進んで参加する立派な姿も見られました。



夏まつり ソーラン踊り

さて、7月下旬に文部科学省が実施した令和5年度の全国学力・学習状況調査（小6と中3が対象）の結果が公表されました。この中の「自分にはよいところがあると思う」という質問についてのクロス集計結果（2つの結果の相関関係をみる）を通して、「自己有用感」と「認める」ということについて、書いていきます。

同結果では、「先生がよいところを認めてくれていると思う」に当てはまると回答しているほど、「自分にはよいところがあると思う」に当てはまると回答している傾向が見られました。この結果から、他者から認められることが、「自己有用感」を高めることにつながると考えられます。

人の役に立った、人から感謝された、人から認められた、という「自己有用感」は、自分と他者（集団・社会など）との関係性を自他共に肯定的に受け入れられることで生まれる、自己に対する肯定的な評価です。自他の関係性を肯定的に受け入れられることで、人とかかわることが好き、集団活動に進んで参加しようという意欲につながっていきます。

「自己有用感」は、自他共によりよく生きていく上での「社会性の基礎」になると言われています。

では、どのように「認めること」が、「自己有用感」を高め、子どもたちの心に響くのでしょうか。ポイントは、大人の基準ではなく子どもの基準に立って、「認めること」です。

大人は、大人の一定の基準をもとにしたり、表面的な言い方や全員一括りにしたりして、子どもを「認めること」はないのでしょうか。この認め方は、子どもの認めてほしい点とずれてしまい、心に響かない場合があります。

一方で、子どもは、認めてほしい基準が一人一人違う面をもっています。子どもは、自分が決めた目標やこだわりで努力したり工夫したりしたことを見てほしい、認めてほしいと思っています。この認めてほしい点を、日頃から大人がきちんと見て、「認めること」が子どもたちの心に響くのではないのでしょうか。

本校では、このことを意識しながら子どもたちを認め、「自己有用感」を高めていきたいと思えます。家庭・地域でも、子どもたちのよいところをたくさん認めていただけると幸いです。

【参考】国立教育政策研究所ホームページより

- 令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果(概要) (4) 児童生徒の挑戦心、自己有用感、幸福感等に関する状況
- 「自尊感情」？それとも、「自己有用感」？

【今年度以降の運動会は、午前までのプログラムで実施します】

昨年度までの2年間、運動会は午前までのプログラムで実施していましたが、このことを踏まえて、今年度以降の運動会についてお知らせします。

運動会の目指す教育活動は、練習・準備を含め午前までのプログラムにより充分行えること、教職員の働き方改革のために行事の見直しをしていること、児童と保護者の方が一緒に昼食がとれるスペースに限りがあるなど、総合的に検討し、今年度以降の運動会は、午前までのプログラムで実施し、終了後、昼食なしで下校となります（延期し平日開催した場合は給食となります）。

ご理解とご協力をお願いいたします。